

5 桶太鼓を抱える

① ここで大切なことは、「打面の位置」・「太鼓の傾け具合」・「ストラップの長さ」です。

* 先ず適当なストラップの長さで太鼓を抱え、太鼓の「右打面」を上げてみましょう。

普通に構えれば、打面を見ようとして右上がりになりますが、問題はその上がり具合です。太鼓の打面が「少し見える程度(次ページで画像掲載)」というのがお薦めの角度ですが、このとき打面は「出来るだけ身体の左側に来るように」ということです。打面が左側に来ると(つまり身体の中心近く)、右手も左手も無理のない姿勢で打つことが出来ます。最も、左に寄せすぎると太鼓そのものが「グルン」と左側に逃げてしまいますから、そこは適度な…。(抱え桶を練習すればするほど、つまり慣れるほどに逃げられることなく、桶太鼓が身体に馴染みます。)

そして、バチを持った両手の指で(右手は人差指、左手は小指)軽く太鼓のリングに触れます。これくらいの長さ(R 350ミリ・L 360ミリ)のバチなら、そのときバチ先が丁度打面の真ん中あたりに来ます。違った言い方をすれば、「420ミリくらいの長さのバチを持った場合は、指がリングに触れたときバチ先が打面の真ん中あたりにくるように、バチの握るところを調整する」ということです。

ここまでで「太鼓の打面の位置」・「傾け具合」が決まり、バチ先も「打面の真ん中あたりを打つ」ところまで来ました。

ここからが「ストラップの長さ」調整です。

先ず、これがこの講座での「正しい桶太鼓の構え方」を。



右手(腕)・左手(腕)、ともにどこにも力が入らず自然体。
特に、「肘」が軽く(自然に)曲がっている。